

大江首席交渉官代理による記者会見の概要
(カトラー米国次席通商代表代行との協議後)

日時：平成27年1月16日（金）12：15～12：25

場所：外務省内

【質疑応答】

（記者）

日米協議について本日、甘利大臣が「間合いは詰まっている感じがするが、合意は遠いだろう」という見通しを立てていたが、実際どのような感じか。

（大江代理）

そういうことだと思う。最近になってオバマ大統領もフロマンUSTR代表も、ここ数か月の間にTPPをまとめたいと言っている。これまでも米国からはいつまでにとという話があって、オオカミ少年ともとれるところもあったが、今回、何よりも強く感じたのは、米国も本気でここ数か月でTPP交渉全体をまとめようとしているということ。それまでには日米もまとまっていけないので、お互いにただ睨み合っているというのではなく、ランディングゾーンを探ろうということを実際に考えて、今回訪日したということは感じた。それは非常にグッドニュースだったと思う。実際に間合いが近づき始めていることは事実である。ただ、残っている問題、まだ解決できていない問題は、減ってはいるが、より難しい問題が残るわけなので、まだだいぶ作業は必要かと思っている。全体をまとめるためには、最終的には閣僚レベルで政治決着する必要があるかも知れないが、まだそれをアレンジできるところまでは来ていないので、今回、カトラー代表代行も日本に来たので、次は私がまた、数週間のうちに米国に行って引き続き協議を行う。そこで閣僚に上げる準備が整うかどうかはやってみなければ分からないが、動き出したという感じは持っている。

（記者）

そうすると、今回は何合目か。

（大江代理）

過去も色々なところで9合目とか書かれているので、これ以上何合目とかは言いようがないが、間合いが縮まっているというのには2つあって、1つは先ほども申し上げたように、残された問題が減ってきているということである。もう1つは、最後に政治決断を要する問題については、なかなかお互いに間合いを縮めるということは難しく、どこら辺に落とす気なのかということをお互いに腹の探り合いをしているということである。何合目まで来たとは言いがたいが。

(記者)

数週間のうちに米国に行かなければならないと仰っていたが、見通せる範囲でのスケジュール感如何。

(大江代理)

何日に米国に行くということは、これから正式に決めてどこかで発表するが、それまでにも首席交渉官会合や何かあるので、そういう日程とも調整をする。首席交渉官会合で私はルールの方は必ずしもやってないのだが、米国とだけ協議していればいいというわけではなく、他の国の首席交渉官が集まる場で協議した方が能率的なので、そこと重ならないように日程調整したいと思う。

(記者)

今回の協議で進展はあったのか。

(大江代理)

あった。どこの部分が進展したのか、中身の話には入れないが、進展があったというのは、間合いが狭まってきたということと、最後に我々事務レベルでは決められないことについて、腹の探り合いの中で少しずつ、おぼろげながら見え始めた部分もあるということ。

(記者)

そうすると、閣僚レベルに上げる状況になるまでには何が必要になるのか。

(大江代理)

閣僚にあまり多くのことを決めてもらうのは無理なので、閣僚に上げて判断を仰ぐものについてはウンと数を狭め、まさに残っている問題の数を減らすということと、先ほど申し上げたランディングゾーンというか落としどころについて、常にリスクは最後まで残るものの、ある程度の感触が得られないとなかなか閣僚をアレンジするのは難しいと思う。

(記者)

今仰っているのは、基本的に農産物の話か、それとも自動車の話か。

(大江代理)

全部含めてである。

(記者)

その中で、これまでもカトラー代表代行とのやりとりの中で、ある程度、いいラインまで来ているという話はあったが、閣僚になったときになかなかそれがうまくいかないということがあったと思うが、これまでは。

(大江代理)

進展があったというのは今までも事務レベルで言ってきたが、後は閣僚にこことここだけ決めてもらえば済むというところまで縮まっていない段階でそう言っていたところもあり、それゆえに閣僚会合で全部うまくいったとはいえないようなケースもあった。そういう形での閣僚会合を今度はセットできないと思っているので、もう少しある程度の見通しが立たないとセットできないと思う。

(記者)

ある程度カトラー代表代行にマンデートが与えられているというご認識か。

(大江代理)

マンデートもあるし、カトラー代表代行自身もフロマン代表とは緊密に連絡を取り合っていると思う、交渉している間も。

(記者)

本気度を感じたというのは、どういうところで米国の本気度を感じたのか。

(大江代理)

なかなか答えにくいところもあるが、実際にそれなりにまとめるための準備をしてきたと感じている部分もあるし、実際に最終的に合意に達するためには色々やらなくちゃいけない、大体のイメージで話をするのではなく、色々技術的にやらなくちゃいけない作業は一杯ある。例えば案文に色々落としていくとか、そういうことについても心配し始めたということ自体、段々そういう最終的なラインに向かって何をしなければいけないのか、何をどれくらいの時間をかけてやるのかということについての打合せもだいぶ行った。

(記者)

そういうことも踏まえると、あと1回ぐらい大江代理が訪米すれば、日米閣僚会談はセットするという事か。

(大江代理)

できるに越したことはないが、あと1回で済むと言い切るほど自信はない。

(記者)

今後は大澤農水省国際部長とヴェッター首席農業交渉官(との協議)はなしで、大江代理とカトラー代表代行とお二人で協議するのか。

(大江代理)

今度行くときには大澤部長にも来てもらおうと思っている。ワシントンで行うときはヴェッター首席農業交渉官もいるので、両方協議しようと思っている。

(記者)

そうすると、閣僚会合が今度開かれた場合は、そこで交渉をやるというのではなくて、バイで大筋合意できるような感じになるのか。

(大江代理)

それは交渉をやらしてもらわないと、私のレベルで全部交渉の中身を決めるのはとても荷が重すぎる。最後に政治決着しなければいけない問題も残ると思うので、閣僚で全部が全部まとまるかどうかは別だが、一番難しい問題についての目途はつけてもらう必要はあると思う。

(記者)

政治決着への道筋は見つかったのか。

(大江代理)

いえ、それがまだなので、また米国に行くことになる。

(記者)

一部報道で、2週間後の26日からニューヨークで首席交渉官会合が開かれるのではないかという話があるが、今、2週間後と仰っていたが、それに合わせてということになるのか。

(大江代理)

2週間後とは言っていない、数週間後と申し上げた。首席交渉官会合とは一緒にはできないので、数週間後と申し上げた。ただ、ニューヨークというのはまだホスト国が発表していない。

(以上)